

保健医療管理学特論

[講義] 第1・2学年 後期 選択 2単位

《担当者名》 幸村 近 近藤 啓

【概要】

多職種連携が基本となっている現在の医療の現場では、臨床検査の専門知識や臨床検査技師としての能力を必要とされる場面がさまざまに存在する。感染症、栄養管理、認知症、糖尿病、心不全などに携わるチーム医療の場で中心的な役割を果たすために、国内外における現代の保健・医療の現状と課題について理解するとともに、臨床検査に関連する最新の研究動向・実施例を学ぶ。自らが保健・医療にどのように貢献できるかを考察する。

【学修目標】

【一般目標】

保健政策・行政と医療管理をを概観する。

【行動目標】

- 1) 国際的な医療の動向を説明できる。
- 2) 保健・医療制度を説明できる。
- 3) 在宅医療における臨床検査について説明できる。
- 4) 臨床検査の新たな展開を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	序論	科目全体に関するオリエンテーション	幸村 近
2 3 4	国際的な医療の動向	国内外の疾病や死因の動向とそれに対する新たな知見や治療・予防法などを理解する。	幸村 近
5 6 7	保健・医療制度と医療倫理	わが国における保健・医療・福祉の現況を理解し、さらに国外の制度との比較において、医療倫理との関わりを含めて利点・欠点を考察する。	幸村 近
8 9 10	在宅医療と臨床検査	他の医療職種の業務・活動を含めた在宅医療の現状の理解と、それに関わる臨床検査領域の専門性を生かした実践と展望について考察する。	近藤 啓
11 12 13	臨床検査の新たな展開	主要疾病（感染症、がん、心血管病など）、AIの活用、医療法改正とタスクシェア、精度管理・保証、社会貢献、人材育成などさまざまな項目と臨床検査の関わりを検討する。	近藤 啓
14 15	まとめ	レポートのプレゼンテーションと科目全体についてのディスカッションを行う。	幸村 近 近藤 啓

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート 50%、口頭試問 50%。

【評価基準】

国内外における現代の保健・医療の現状と課題、臨床検査に関連する最新の研究動向・実施例を理解し、自らが保健・医療にどのように貢献できるかについて論説・説明できる者に対して単位を付与し、学修目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力など）の達成度に応じて、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）の評価を与える。

【教科書】

随時提示する

【参考書】

随時提示する

【備考】

Google Form を用いてレポート課題等を提示する。

【学修の準備】

予習は、指定した資料の次回授業部分を事前に読み、授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。(80分)

復習は、授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。(80分)

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP1) 幅広い学識、高い倫理観を備えた医療人として、多様な背景を持った人々と共感し、円滑なコミュニケーションを取る能力を身につけていること。

(DP4) 身近な地域および国際的な保健・医療や社会の動向に目を向け、常に自己研鑽に務め、修得した能力を社会へと還元し、自ら成長できる能力を身につけていること。

【実務経験】

幸村 近 (医師)

近藤 啓 (臨床検査技師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かして講義等を行う。